

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

倉敷市の西中で、生徒が主体となった校則の見直しが進んでいます。記事を読み、質問に答えましょう。

Q1

倉敷 西中 生徒主体校則見直し



校則の見直しに取り組んだ西中生徒

倉敷市日吉町の西中で、生徒が主体となった校則の見直しが進んでいる。髪形や服装を厳しく定める「ブラック校則」が全国的に問題となる中、全校規模でアンケートを実施するなど、生徒会だけでない幅広い意見を反映させた。靴下や肌着の決まりを緩和した新たな校則は2023年度から採用する予定。（岡本遥加）

見直しのきっかけは、4月からの新制服の導入。多様性に配慮したデザインを生徒が話し合う中で、校則についても同様の視点から再検討したいと声が上がり、22年5月に生徒会執行部や学級委員に教員も加わり検討委員会を発足した。月に1、2回、放課後に話し合い、全校生徒約900人を対象に校則に関するアンケートも行った。生徒の声は服装に関するも

23年度から適用 靴下、肌着の決まり緩和

のが多かった。学校の現況や社会情勢の変化なども踏まえ、「白色のみ」としていた靴下や運動靴、肌着は「白、黒、紺、グレーでワンポイント可」「登下校や運動に適したものに」「無地で派手でないものに」など条件の緩和を決めた。校則の記載外だが禁止されていたウインドブレーカーの着用も可能とした。見直しには、学校に常設されている意見を募る「目安箱」に寄せられた提言も参考にした。改善につながったのは、慣例で認められていなかった長袖の「腕まくり」。エアコンが効いた室内と屋外の温度差を考慮し、体調管理の観点から柔軟な形にした。生徒指導主事の藤井亮教諭は「生徒の関心が高かった。卒業する3年生も『後輩のために』と取り組んでくれ、その姿勢に感心した」。検討委員の2年森下心温さん(14)は「規則で嫌な思いをする人がいないよう一生懸命考えた。自分たちで決めたからこそ守っていきたい」と話す。西中は、今後も目安箱で校則に関する意見の募集を続け、随時検討していくという。

3月3日付山陽新聞、都市圏面

校則の見直しに幅広い意見を反映させるために行ったことを説明する次の文の [] を埋めましょう。

- 全校規模で [] を実施した。
- 学校に常設されている意見を募る [] に寄せられた提言も参考にした。

Q2

2023年度から採用する新たな校則は何を緩和しましたか。第1段落から書き出しましょう。

Q3

どうすれば厳しすぎる「ブラック校則」を変えられると思いますか。記事を参考に自分の意見を書きましょう。

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。